

弥生～室町時代に営まれた丘陵上の集落

たか おきた
高尾北ヤシキ遺跡

たか お
津山市高尾

一般国道53号（津山南道路）改築工事に伴う発掘調査は、昨年度から引き続き高尾北ヤシキ遺跡の調査を行っています。この遺跡は津山市街から約5km南西、皿川の左岸にある嵯峨山の南東麓に位置し、これまでの調査で弥生時代中期（約2,200年前）から室町時代（約500年前）にかけての遺構や遺物が見つかっています。

今年度は遺跡の北側から調査を進めており、弥生時代から古墳時代、古代につくられた建物（たてあな 堅穴住居・だんじょういこう 段状遺構・ほったてぼしらたてもの 掘立柱建物）、弥生時代の木棺墓や室町時代の山道を検出しました。そのうち丘陵高所に位置する古墳時代後期（6世紀後半ごろ）の堅穴住居1は、一辺の長さが約4mで造り付けのカマドをもち、壁から住居の外に延びる煙道が掘られています。カマド付近には土師器の甕が床面に置かれていました。カマド付き住居は調査区内でもう1軒見つかっており（堅穴住居2）、そちらでは土師器甕の完形品4個が床面に残されていました。

また、調査区南側の浅い谷部では、多くの遺物を含む土（ほうがんそう 遺物包含層）が厚く堆積しています。主な遺物として、弥生土器や石包丁、サヌカイト製石器、古墳時代後期から古代の土師器や須恵器、陶



空から見た高尾北ヤシキ遺跡（南上空から）

棺の破片、鉄滓（鉄素材や鉄器をつくる際の不純物）や製鉄炉の炉壁、鎌倉時代から室町時代の瓦質土器や陶磁器類（勝間田焼・備前焼・青磁・天目茶碗）、碁石や土錘（漁労に使うおもり）、銅滓が出土しています。この包含層下では、弥生時代から古墳時代、鎌倉時代から室町時代に建てられたと考えられる建物を計5棟検出しました。

高尾北ヤシキ遺跡では、弥生時代から断続的に同じ場所で人々が生活していたようです。また鉄滓や銅滓といった遺物が出土していることから、この遺跡の周辺では森林資源を利用した鉄や銅の生産が行われていたことも考えられます。

こうした発掘調査と併行して、本誌第64～69号で紹介した桑山南古墳群、細畝古墳群、桑山古墳群の調査成果をまとめた報告書を作成してきました。ここではその作成作業のなかで、多くの時間を費やした桑山南1号墳の陶棺の復元や写真撮影の様子を紹介します。

陶棺とは、土で作られた焼き物の棺です。完全な状態で見つかることはまれで、多くの場合破片となって出土します。このため、ジグソーパズルのように組み合う破片を根気強く見つけて接着剤でつなぎ合わせていきますが、破片が大きく厚いため接着に時間がかかりました。それでも丁寧に作業を進めることで、最終的には長さ約190cm、幅約70cm、高さ約100cmの埋葬当時の形まで復元できました。しかし、この大きさとなると持ち運びも一苦勞で、少なくとも4～5名の人手が必要となります。さらに写真撮影にあたっては、陶棺全体をカメラに収めるため、特別の撮影台を用意する必要もありました。

こうした作業を通じて得られた製作技法についての多くの知見は、今年度末に刊行する報告書に掲載しますので、ぜひご覧ください。

（四田寛人・小嶋善邦）



竪穴住居1のカマド



竪穴住居2の土器出土状況



陶棺の復元



陶棺の写真撮影

美作市南部に位置する大林遺跡では、美作岡山道路改築工事に伴い、令和2年11月から翌年4月まで発掘調査を行いました。調査の結果、塚状遺構1基と、江戸時代の墓地を確認しています。

尾根筋上に位置する塚状遺構は、全長約6m、最大幅約3mを測るいびつな楕円形で、地元ではその形から「ひょうたん塚」と呼ばれていました。今回の調査で、塚の頂部から火葬骨を収めた土坑が見つかり、出土遺物から中世末ないし江戸時代初め頃の墓と判明しました。

塚状遺構の北東側では、方形区画の中から江戸時代中頃以降の土葬墓が25基まとまって見つかりました。墓坑内からは多数の銅銭（寛永通宝）をはじめ、硯や陶磁器など、当時の埋葬習俗をうかがわせる多様な副葬品が出土しました。（岡本泰典）



「ひょうたん塚」の調査（東から）



江戸時代の墓地（北西から）

百間川原尾島遺跡は、旭川の放水路である百間川の河川敷内を中心とする遺跡で、これまでの調査により弥生時代から古墳時代の拠点集落と考えられています。今回の調査地は百間川左岸側に位置し、過去の調査で弥生時代から中世にかけての居住域が確認された地点の北側にあたります。

調査の結果、南側から延びる微高地を確認しており、古墳時代後期のカマドをもつ竪穴住居を1軒検出しました。この微高地の周囲には溝がめぐっていることから、過去の調査で確認された居住域の北端にあたるようです。溝からは土器や木製品のほか、鉄滓、炉壁などの製鉄関連遺物や石製の有孔円板、白玉なども出土しています。

過去の調査と比較すると遺構密度は低いものの、弥生時代の土坑や溝、中世以降の掘立柱建物なども検出しており、集落縁辺部の様相を明らかにすることができました。（山口香織）



調査地西半の主な遺構（上が北）



古墳時代後期の竪穴住居（東から）

令和3年度の催し物案内

津島遺跡やよいまつり

岡山県総合グラウンド内にある史跡津島遺跡の一部を復元整備した津島やよい広場と、その出土品を展示する遺跡&スポーツミュージアムにおいて、弥生時代の道具を使った米の収穫や火起こし、勾玉づくりなどの古代体験や、復元された住居や建物をめぐりながら津島遺跡や弥生時代について学ぶクイズラリーを行います。

会場：岡山県総合グラウンド(岡山市北区いずみ町)
津島やよい広場、遺跡&スポーツミュージアム
日時：令和3年10月23・24日(土・日曜日) 午前10時～午後3時
定員：なし(勾玉づくり、火起こし体験は当日要申込)



火起こしの様子

吉備の考古学講座「墳墓の考古学」

岡山県で発掘された縄文時代から江戸時代の墳墓を題材に、当センター職員による講義を行います。会場は岡山県立図書館多目的ホール(岡山市北区丸の内)で、定員は60名。県立図書館への事前申込が必要です。

第1回 縄文・弥生時代の墳墓、古墳時代の墳墓
日時：令和3年11月21日(日曜日) 午後1時30分～3時40分
第2回 古代の墳墓、中・近世の墳墓
日時：令和4年2月26日(土曜日) 午後1時30分～3時40分



倉敷市楯築墳丘墓

吉備路ウォーク

吉備路に所在する、5世紀前半に築かれた吉備最大の前方後円墳である造山古墳とその周辺の古墳をめぐり、そのつくりや歴史について学びます。

会場：造山古墳(岡山市北区新庄下)
日時：令和3年12月4日(土曜日) 午前10時～午後3時
定員：30名(申込期間11月8日～22日、申込多数の場合は抽選)



昨年度の様子

講演会「アクセサリーからみた古代」

高田貫太 国立歴史民俗博物館教授、谷澤亜里 奈良文化財研究所研究員を講師に迎え、装身具を通してみえてくる古墳時代の有り様について、講演いただきます。

会場：岡山県立図書館多目的ホール(岡山市北区丸の内)
日時：令和4年1月22日(土曜日) 午後1時～4時
定員：60名(県立図書館へ、事前申込が必要)



古墳時代の玉類の展示

ふんどうがた どせいひん こども体験教室「分銅形土製品をつくろう」

令和3年5月22日(土曜日)

今回のこども体験教室は、WEB会議システムの「ZOOM」を使って、参加者に自宅で受講していただくという初の試みを行いました。参加者へは事前に材料の粘土や製作のための道具を郵送するとともに、センターでは配信用の機材をそろえて予行演習を行いました。

当日は、参加者とのオンライン接続を確認した後、分銅形土製品について静止画を映し出しながら解説しました。製作体験では、あらかじめ用意した各段階の見本を示しながら作業を進行了しました。

終了後に参加者から寄せられたアンケートには、「自宅から古代の体験ができる貴重な機会でした」、「外出自粛期間中にもかかわらず実施していただき助かりました」などの好評な意見がありました。これからも対面が困難な状況でも工夫して考古学に親しむ方法を模索していきたいと思ひます。

なお、今回の体験教室で参加者が製作した作品の写真は、センター展示室入口掲示板と公式Instagramにて公開しています。
(氏平昭則)



ZOOM配信の様子



参加者の作品

夏休み企画☆ワクワク古代体験!

令和3年7月27日(火曜日)～30日(金曜日)

岡山県生涯学習センター交流棟・人と科学の未来館サイピアを会場として開催しました。今回は勾玉や鏡を作る古代体験や、生涯学習センター近くの遺跡で見つかった出土品の展示を通じて、地域の歴史に親しんでもらうコーナーなどを用意しました。

4日間で、小・中学生から大人の方まで262名の皆さんにご参加いただきました。古代体験では、勾玉や鏡についての説明を聞いた後、それぞれ体験に取り組みました。参加者からは「楽しかった」、「もっと古代の生活について知りたい」などの感想がありました。センターの夏休みの恒例行事として、来年度以降も開催したいと思ひます。
(和田 剛)



勾玉作りに挑戦!



出土品の展示

きんぞくせいひん 金属製品の保存処理

発掘現場から出土する遺物の材質は、土（粘土）、石、木、金属などさまざまです。中でも、木製品や金属製品は、周囲の環境に左右されやすい脆弱な遺物です。環境変化の緩やかな土中ではゆっくり進む劣化現象も、土中から取り上げられることによって急速に進行し、原形がわからなくなるほど変形・崩壊してしまいます。そこで、遺物の劣化の進行を抑え、遺物を強化し、安定した状態で保管するために「保存処理」という作業を行う必要があります。今回は当センターで行っている金属製品の保存処理について紹介します。

①事前調査

発掘現場から取り上げられたばかりの金属製品は、土やサビで覆われて原形や内部の状況が分からないため、X線写真を撮り、遺物の状態を調べます。

②サビ落とし、接合

事前調査をもとに、金属製品に付着している木質や布などの有機質や鍍金などの装飾に注意しながら、可能な限り慎重に土とサビを取り除きます。

③脱塩処理、腐食防止処理

新たなサビの発生を防ぐため、化学的な方法で対処します。鉄製品はサビの原因物質を取り除く脱塩処理を、銅・青銅製品はサビの進行を抑える腐食防止処理を、それぞれの薬液に漬けて行います。

④樹脂含浸・塗布処理

脱塩・腐食防止処理の効果を保ち、空気中に含まれる酸素や水分から金属製品を防護するために、アクリル樹脂を含浸および塗布します。これで保存処理作業は完了です。

⑤収納、管理

以上のように多くの時間と工程を経て保存処理を施しても、現在の技術ではサビの発生やそれに伴う崩壊を完全に防ぐことはできません。そのため、温湿度調整した環境で管理し、定期的に金属製品の状態を点検することが不可欠です。

遺跡から出土する遺物は、各時代の人々の生活を知ることができる貴重な文化財です。これらを多くの皆さんが身近に感じていただけるよう展示などの公開活用を通じ、次世代へ伝えていきたいと思ひます。

(小林有紀子)



処理前(上)とサビ落とし・接合後(下)



脱塩処理の様子



樹脂含浸の様子



展示の様子

おうち時間で遺跡に親しむ

ホームページのごあんない

新型コロナウイルス感染症予防のために、自宅で過ごすことが増えた
昨今、さまざまな「おうち時間」の楽しみ方に注目が集まっています。当
センターのホームページでは、自宅でも岡山の遺跡を楽しめるコンテン
ツを提供していますので、みなさまのおうち時間にぜひご活用ください。

古代吉備文化財センター
ホームページはこちら



古代吉備文化財センター

<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai>

岡山の遺跡を気軽に学ぶなら

特集記事

岡山県の主要な遺跡について、テーマ別にコラムや用語解説などさまざまな
記事を掲載しています。

● 岡山は今も昔もモモの国

● 「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業

● 岡山県中世城館跡総合調査

● 子どもホームページ

● 津島遺跡(弥生のムラ)

● 古代吉備を探る

吉備路の遺跡紹介やこうもり塚古墳の調査状況を報告しています。
現在進行中の事業なので、これから内容が増えていく予定です。

岡山県の主要な遺跡や遺物の紹介と用語解説をしています。小中
学生の調べ学習などにご利用ください。

センター職員が調査に関わった遺跡や関心を寄せるテーマについ
て書いた記事が55篇掲載されています。

岡山の遺跡を詳しく調べるなら



デジタル図書室

当センターで刊行した発掘調査報告書やパンフレットなどのPDFを公開して
います。

発掘調査報告書

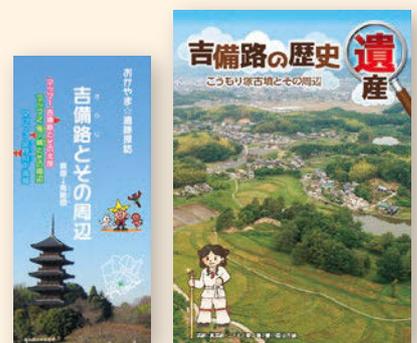
発掘調査を行った遺跡の詳細な情報が記載されています。昭和47年から
令和2年刊行の報告書まで、252冊が閲覧可能です。

パンフレット

発掘調査の成果を紹介したパンフレットやエリア別に主要な遺跡の情報を
掲載したマップなどがあります。

学習教材

「岡山の弥生時代1」、「おかやま考古学探検」、「吉備路の歴史遺産」の3冊
があり、写真やイラスト満載で岡山の歴史を楽しく学べます。



岡山の遺跡の映像を楽しむなら



動画

平成18～21・23年度に行った史跡鬼城山の発掘調査の動画を視聴できます。また、期間
限定で講座や講演会などの動画も更新する予定です。



最新の更新情報はメールマガジンやSNSでも
発信していますので、ぜひご登録ください。

※ホームページの内容は変更する場合がありますのでご了承ください。



Facebook

<https://www.facebook.com/okayama.pref.kodai>



Instagram

https://www.instagram.com/kodai_kibi



センター収蔵品紹介 vol.19 — つしま 津島遺跡出土の ぶんどう 分銅 —

石器が物語る弥生時代の計量技術

津島遺跡は、岡山県総合グラウンドを中心に広がる主に弥生時代から古墳時代にかけての集落遺跡です。コメづくりがはじまった弥生時代前期の水田と集落が全国で初めて一緒に発見されたことで有名になり、昭和46（1971）年に国の史跡に指定されました。現在、津島やよい広場に復元している竪穴住居や水田などは前期の遺構をもとに整備されていますので、津島遺跡といえば弥生時代前期に営まれた農村集落といったイメージを抱く方も多いと思います。

ところが、津島遺跡では、弥生時代後期の竪穴住居や土器の方が多く見つかったことから、後期には前期より集落規模が拡大したことが分かっています（写真1）。ここでは、後期の津島遺跡の性格を物語る興味深い資料を紹介します。

写真2は、現在の陸上競技場の下を流れていた弥生時代後期の河道から出土した石器です。楕円柱状で長さ8.15cm、幅4.65cm、厚さ3.7cm、重さ296gを測ります。手のひらにのるサイズで、表面を磨いて形を整えているのが特徴ですが、平成15（2003）年の報告書刊行時、この石器が何に使われていたのか分かっていませんでした。

ところが、平成24（2012）年に注目すべき研究が発表されました。弥生時代に重さを量る天秤てんびんがあったというのです。大阪府亀井遺跡で出土していた石器がそのおもり「分銅かめい」であるとする説は、当時多くの反響を呼びました。こうして見ると、先にあげた津島遺跡の石器は亀井遺跡の「分銅」とよく似ており、その可能性が指摘できます（図）。弥生時代の石の「分銅」は、全国でまだ40例ほどしか発見されておらず、これが「分銅」であれば、当時まだ稀少であった計量の知識と技術を習得していた人物が津島遺跡に居住していたこととなります。たったひとつの石器ですが、津島遺跡のなりわいを物語る貴重な資料です。（金田善敬）

森本 晋 「弥生時代の分銅」『考古学研究』第59巻第3号 2012年
中尾智行 「弥生時代の計量技術—畿内の天秤権—」『考古学研究』第65巻第2号 2018年



写真1 弥生時代後期から古墳時代の集落
竪穴住居がたくさん見つかりました



写真2 津島遺跡の「分銅」



図 「分銅」の比較
左：津島遺跡（296g） 右：亀井遺跡（277g）



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-0136 岡山市北区西花尻1325-3

TEL (086)293-3211 FAX (086)293-0142

<https://www.pref.okayama.jp/site/kodai/>

<https://www.facebook.com/okayama.pref.kodai>

◎ 交通案内 JR山陽本線庭瀬駅下車徒歩40分

JR桃太郎線吉備津駅下車徒歩25分

◎ 業務時間 AM8:30～PM5:15

◎ 休業日 土・日曜日及び祝日、年末・年始

◎ 展示室の開館 AM9:00～PM5:00

年末・年始を除き、土・日・祝日も開館しています。

ただし、臨時に休館することがあります。